

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：32704

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00510

研究課題名(和文) フローベール生成研究—初期・中期作品におけるファミ・ファタル とファタリテ

研究課題名(英文) Recherches genetiques de l'oeuvre de Flaubert - femme fatale et fatalite dans les premiers romans de Flaubert

研究代表者

大鐘 敦子 (Ogane, Atsuko)

関東学院大学・法学部・教授

研究者番号：50350541

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：フローベールが描く女性像は、十九世紀後半に特に注目された「ファミ・ファタル(宿命の女)」の概念に多大な影響を与えたと言われている。本研究では、フローベールの初期から中期に当たる作品群を、特に未公開草稿であった自伝的作品『十一月』のオークション後の閲覧をはじめとして、前後や周辺の作品との間テクスト性と草稿研究に焦点を当てて分析を試みた。青年期の作品に見られる作家の試行錯誤やフローベールにおける「宿命の女」の表象の創造過程が、いかに円熟期の「宿命の女」像に影響を与えたかを解明することに務め、フローベールにおける宿命的な女性像の形成と変遷を初期から晩年まで俯瞰できるものとして新たに位置づけた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、初期から中期の生前の未発表作品の中から、自伝的小説『十一月』において作家が試みた試行錯誤や初期の文体が、後期の『感情教育』に与えた関係性や他作品との間テクスト性を文学史的観点から考察し、幻の草稿とされていた『十一月』をオークション後早々に特別閲覧し、非人称小説を生み出す過渡期のフローベールを紹介することに務めた。立教大学やジョーンズ・ホプキンス大学で開催された国際会議などでの発表に努めるとともに、生誕200周年記念論集『フローベールとスキャンダル』や共同編集した『聖アントワヌの誘惑』150周年記念論集をRouen大学フローベール研究所サイトに掲載し社会にその意義を問うことができた。

研究成果の概要(英文)：The figure of 'femmes fatales,' which appears in Flaubert's work has influenced considerably the concept of the nineteenth century French Literature. We examined the first novels and their manuscript, especially November and his manuscript which was 'nt known to recently to see the intertextuality with his before and after novels, but also the genetic research in his manuscript. We propose to analyse from various points of view the trial and error of the young author and his creation of the femmes fatales and the fatality, which influenced the style and theses figures in his masterpiece, and thus reexamine the total process of the formation of the femmes fatales in Flaubert's work.

研究分野：人文科学(ヨーロッパ文学)

キーワード：フローベール 初期作品 中期作品 『十一月』ファミ・ファタル ゲーテ 生成研究 草稿

1. 研究開始当初の背景

19世紀フランスでは、「ファミ・ファタル(宿命の女)」という概念は、ロマンティズムから世紀末文学まで文芸分野で最も注目されたテーマの一つであり、リアリズムの父フローベールの『ヘロディアス』のサロメや『サラムボー』をはじめとする作品における女性像は、この象徴主義的な世紀末神話の形成に多大な影響を与えたと言われている。研究代表者はフローベールの最晩年のサロメ像の分析を皮切りに、初期作品まで、作家の生涯にわたるこの女性像の変遷やその形態を、草稿の転記・解読による生成論的手法と間テクスト的視点から検討してきた。しかし、最初期の作品と円熟期を結ぶ中間期に、どのように作家が変貌し、中間期のファミ・ファタル像と作家の形成がどのような関係にあるかはまだ解明されていなかった。ロマンティズムの影響を受けた青年期の作品と、リアリズム小説までの間隙を作家はどのように乗り越えていったのか、疑問は残されていた。

2. 研究の目的

本研究では、19世紀後半の「ファミ・ファタル神話」形成の原点にフローベールの初期作品から中期の作品が果たした役割について、これまで実施してきた「ファミ・ファタル神話研究」の成果を用い、フローベールの草稿の特徴を考慮しながら、生成比較研究や間テクスト研究によって明らかにし、作家における女性像の変遷や美学を辿るとともに、これを文学史的観点からも分析することを目的としている。具体的には、中間期の作品におけるファミ・ファタル像、作家が試みた試行錯誤のあり方、初期の文体が、円熟期の『感情教育』などに与えた関係性や他作品との間テクスト性を文学史的観点から分析するために、中間期の作品の代表作である『十一月』の決定稿とともに、その前後の作品群との関係を分析する。

3. 研究の方法

(1) 初期作品の中の代表作で、後期の作品群と関係の深い自伝的小説『十一月』と、最初の自伝的小説『狂人の手記』との関係性について、二つの自伝的小説の変遷と発展を検討する(研究代表者が前プロジェクトで未公開だった草稿を解読・転記し校訂した成果を活用する)。

(2) これまで未公開であった自伝的小説『十一月』の草稿が、もしオークションに出て閲覧可能であれば、この草稿の保存状況と特殊性を分析する。

(3) 自伝的小説『十一月』を多角的に分析するために、フローベールが影響を受けたゲーテの作品との外的間テクスト性や、その後に発展する自伝的色合いの濃い初稿『感情教育』との内的間テクスト性、試行錯誤の結果としてのジャンルの混淆、円熟期の作品との文体の影響関係などを検討する。

(4) 初期から後期にわたって作家が「生涯の作品」とした『聖アントワーヌの誘惑』やその女性像について、中間期に完成され、研究代表者が解読・転記して2021年に発表した第二版(1856)の女性像を中心に分析対象とする。

4. 研究成果

(1) 初年度および次年度は、パンデミックのために例年実施していた海外での草稿調査を実施できず、いくつもの国際会議が中止されたため、国内での調査や作業に徹した。特に世紀末ファミ・ファタル像のみならず、ファタリテ(宿命観)の観念の歴史やフランスにおける発展の

調査と理解に努める一方、初年度にルーアン大学フローベール研究所で公開した初期作品 *Les Memoire d'un fou* の転記・解読について、ファタリテの語が作品でどのように扱われたか、またどのように作家として成長を見せているかを考察した。

(2) 2021年には初期作品とのちの傑作との中間の時期にフローベールが取り組んでいた『聖アントワーヌの誘惑』第二版(1856)について、草稿転記によるディプロマティック解読校訂批評版に多くの分析を加筆して、ジュネーヴのDroz社から研究成果公開促進費で出版した。この校訂版の制作にあたっては、現在肉眼で判読可能な限りの解読に挑戦した。従来、第1版のダイジェストに過ぎないと見なされていた第2版の存在意義と決定稿に至るまでの重要性を論証することに初めて成功した。

また、海外での生誕200周年記念論集 *Flaubert et le scandale* (エリック・ル・カルヴェズ編)では『聖アントワーヌの誘惑』第一版と第二版および、当時の裁判問題について『ボヴァリー夫人』裁判と比較した分析を発表した。

(3) 次年度もパンデミックの影響を受けたため、中期作品とは言えないが、ファム・ファタル研究の成果として、フローベール生誕200周年記念の国際会議と美術展「サラムボー、古代と現代」(6月28日～30日)の同時開催による三日間の大会(ルーアン大学フローベール研究所、ノルマンディー美術館連合他共催)で、開幕の発表「サラムボーのプランとシナリオ」を依頼され、画像とともに転記を分析を紹介した。またフランス国立科学研究所フローベール研究所元ジャック・ネーフ氏からのコメントと意見交換の際に、研究代表者による初期の草稿の分類整理の結果が正統な学説として認められた。同じく200周年記念国際会議で、チュニジアのスファックス大学での国際会議「フローベールとアラブ世界」(12月2日～4日)に招聘され、ファム・ファタルの物語について、作品の構造と「宿命」との相関関係についてオンラインで発表した。

(4) ファム・ファタルに関しては、リヨン国立科学研究所および高等師範学校 CNRS-ENS Lyonでのフローベール生誕プレ200周年国際会議「*D'après Flaubert*」に招聘されていたが、パンデミックのため論集に切り替わり、マスネとの間テキスト論を発表した。また、*La Tentation de saint Antoine* 『聖アントワーヌの誘惑』の初期・中期・決定稿の三版に登場するファム・ファタル、「シパの女王」の形象について論考をまとめた。

(5) 三年目の11月になって学術研究における非常に稀な幸運があった。150年以上未公開でコレクター所有であった中間期の作品『十一月』の草稿がオークションにかかり、フローベール博物館に保存されることになったのである。オークション直後に『狂人の手記』に次ぐ、初期から中期の最大級の重要な草稿の閲覧許可を取ることができ、全ページ96枚を調査し、その画像を整理することができた。

この作品は自伝的小説群としては、初期小説の一つ、『狂人の手記』から後期の『感情教育』へつながるまさに中間期の作品であるが、前者がフローベールが初恋の女性エリザ・フーコー(シュレザンジェ夫人)との出会いを描いているのとは対照的に、後者はマルセイユのホテルで出会ったユーラリー・フーコーとの性体験の思い出をもとに描いている。また、フローベールが告白体のロマンティズムの影響を受けた自伝的物語から、のちのリアリズム文学に連なる非人称的な小説を試みた転換期の最初の作品である。

ただし、草稿を閲覧した結果、最も重要な、第二の語り手に切り替わる場面の草稿は、清書原

稿に近く、加筆・削除を分析できる状況ではないことが判明した。また、信頼に足るプレイアド校訂版を編纂した Claudine Gothot-Mersch 女史も指摘した通り、この草稿には書き直しを繰り返した削除線や加筆の多い、後期作品の草稿に見られるような紙葉と、ほとんど清書に近い、削除線も少ない紙葉という二段階の草稿が混ざり合い、不均一であることから、まだ他に草稿が残っている可能性があるのかという疑問を感じざるを得なかった。また欄外の書き込みの調査も実施したが、当時の周囲の人物や出版社での校正資料は保存されておらず、筆跡鑑定は困難であると判明した。この点に関して、フローベール草稿研究の第一人者であるルーアン大学フローベール研究所前所長イヴァン・ルクレール名誉教授と意見交換をしたが、初期から中期の作品の下書き原稿は、作家自身が処分した可能性があるという見解であった。実際に草稿を調査し、この草稿の転記ミスなどをいち早く反映した最新ポケット版 *Flaubert. Recits de jeunesse manuscrits reveles* (edition de Claudine Gothot-Mersche revisee par Yvan Leclerc) と比較検討できたことにより新しい様々な知見を得ることができた。

(6) 円熟期のリアリズムの代表作『感情教育』と初期作品との関係に関して知見を得るために、科研費補助金による招聘事業として、『感情教育』の草稿研究の泰斗、エリック・ル・カルヴェズ教授(アトランタ大学)を招聘し、二つの講演会を共催し、それぞれ司会、討議を実施して、知見を深めることができた。京都大学人文研究科では、カルヴェズ氏による「旅人フローベール」と題した講演会が実施され、青年期の汎神論について関連のある『十一月』と、後期の『感情教育』との間テキスト分析を、のちに九州大学文学部紀要『ステラ』に草稿画像とともに発表した。また、大阪大学で開催された日本フランス語フランス文学会秋季大会特別講演(共催)では、2015年のオークション時に公開された、『感情教育』の一群の最初期の未公開シナリオをル・カルヴェズ氏が画像とともに日本の研究者に公開し、この講演を通じて、初期の『狂人の手記』から『感情教育』まで一直線に繋がっていたことが証明されたと思われる。

(7) パンデミック中は海外での草稿調査ができなかったため、ファム・ファタル研究の一環であった、ベルトラン・マルシャル教授(ソルボンヌ大学)の『サロメー詩と散文のはざまにーボードレール・マラルメ・フローベール・ユイスマンス』(2023年、水声社)の共同訳を原大地教授(慶應義塾大学)と完成し、出版した。またその成果を社会に還元し、日本のフランス文学におけるサロメ研究と英米のサロメ研究との間隙を埋める目的で、ワイルドの『サロメ』出版130周年記念の2023年に、マルシャル教授を日本学術振興会フェロシップにより招聘した。この初来日では、日仏会館、東京大学(本郷)、関東学院大学、京都大学人文研究科、神戸大学にて、多くの日本の研究者との活発な交流を実現することができた。ファム・ファタルについても、この著作で扱われたように、フローベール作品のファム・ファタル的夢想やダンスの組み合わせの原型が『十一月』にも遡ることや、ファム・ファタルのテーマは、十九世紀においては、文学ジャンルの地殻変動、韻文と散文を超越した究極の文体への挑戦の象徴であった、というマルシャル教授の稀有な分析にファム・ファタル研究の深化を学ぶことができた。

(8) 2023年3月の立教大学・中京大学での国際シンポジウム「ロマン主義と第二帝政期の文学」(開催:菅谷憲興、山崎敦他)では、『十一月』のテーマ批評において青年期の試行錯誤によって、ロマンティズム、リアリズム、サンボリズムというジャンルの混淆が見られることを、また2023年11月のジョンズ・ホプキンス大学開催(ボルチモア)による *Nine-teenth Century French Studies* の国際大会では、ドイツ文学のゲーテの『若きウェルテルの悩み』と『十一月』

の間テキスト研究の成果を発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Atsuko Ogane	4. 巻 -
2. 論文標題 Le nouveau tribunal correctionnel ? Figures feminines et scandales : La Tentation de saint Antoine (1856)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Flaubert et le scandale. Vie, oeuvre, reception	6. 最初と最後の頁 p.119-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 大鐘敦子	4. 巻 32
2. 論文標題 フローベール の初期作品におけるファタリテの問題ー『十一月』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関東学院教養論集	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大鐘敦子	4. 巻 30
2. 論文標題 フローベール 『狂人の手記』ー草稿と加筆	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関東学院教養論集	6. 最初と最後の頁 1-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Atsuko Ogane	4. 巻 -
2. 論文標題 Transcription diplomatique des Memoires d'un fou	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Site Flaubert	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Atsuko Ogane	4. 巻 -
2. 論文標題 Presentation de l'edition des Memoires d'un fou	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Site Flaubert	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Atsuko Ogane	4. 巻 2020-1
2. 論文標題 Questions de transition dans les trois Tentaitons de saint Antoine	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bulletin du bibliophile	6. 最初と最後の頁 151-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大鐘 敦子	4. 巻 42
2. 論文標題 Genese du style, style de genese : "Novembre" de Gustave Flaubert	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Stella	6. 最初と最後の頁 395 ~ 411
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15017/7162059	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 大鐘敦子	4. 巻 34
2. 論文標題 フローベールの初期作品におけるファタリテの問題：『十一月』	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 関東学院大学法学部教養学会	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsuko Ogane	4. 巻 20
2. 論文標題 La Reine de Saba dans la Tentation de saint Antoine. Du savoir erotique au savoir scientifique	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Revue Flaubert " Nouvelles lectures de La Tentation de saint Antoine"	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Atsuko Ogane	4. 巻 20
2. 論文標題 l'Introduction et la Chronologie	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Revue Flaubert " Nouvelles lectures de La Tentation de saint Antoine"	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Atsuko Ogane
2. 発表標題 De la confession a la fiction dans Novembre de Flaubert
3. 学会等名 Colloque " Le romantisme et la litterature du Second Empire" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsuko Ogane
2. 発表標題 Les scenarios de Salammbô : presentation des manuscrits
3. 学会等名 Conferences et rencontres organisées dans le cadre des célébrations du bicentenaire de la naissance de Gustave Flaubert : Salammbô : Antiquité et modernité par l'université de Rouen Normandie (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Atsuko Ogane
2. 発表標題 La symbolique polyvalente dans Salambo : "A Sicca". Du Voyage en Tunisie aux scenarios et des scenarios au roman
3. 学会等名 Colloque international : Gustave Flaubert et le monde Arabe a l'universite de Sfax en Tunisie (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Atsuko Ogane
2. 発表標題 Rites de passage . De Goethe a Novembre
3. 学会等名 48th Annual Nineteenth-Century French Studies Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 ベルトラン・マルシャル(著)、大鐘敦子・原大地(訳)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 355
3. 書名 サロメ 詩と散文のはざまに : ボードレール・マラルメ・フローベール・ユイスマンズ	

1. 著者名 Atsuko Ogane	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Librairie Droz	5. 総ページ数 441
3. 書名 Cabane fantastique - Edition diplomatique de la deuxieme version (1856) de La Tentation de saint Antoine	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------